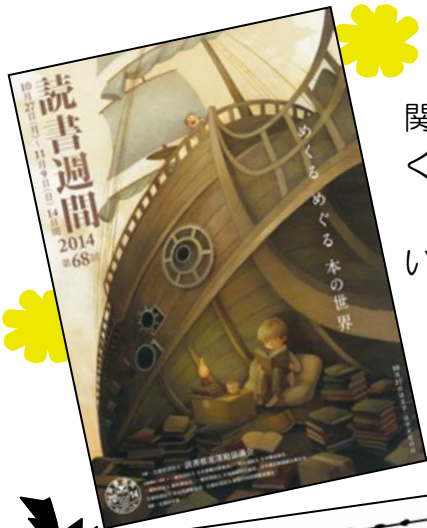


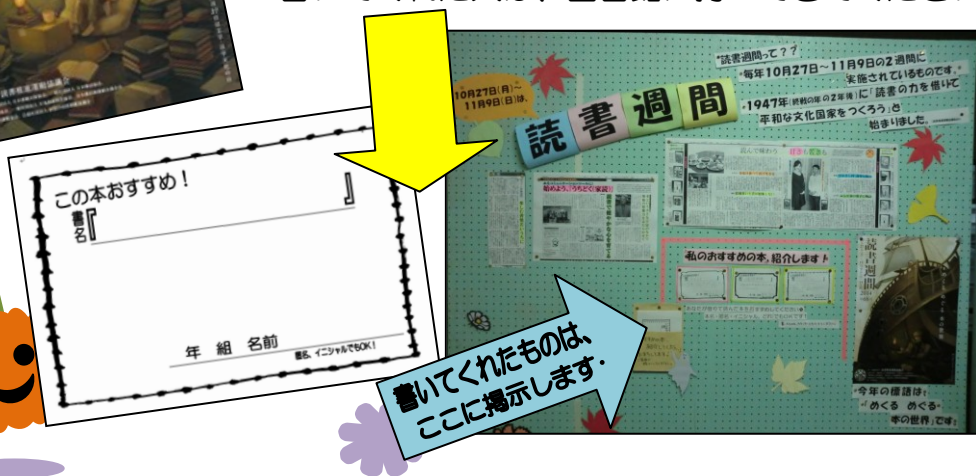
Shono Street

庄内農業高等学校
図書館だより
2014.10.28
No. 8



読書週間がはじまりました。新聞でも読書週間特集が組まれています。関連記事を図書館前廊下に貼っていますので通る時にみてくださいくださいね。

また、「この本おすすめ！」で紹介してくれたものもここに貼っています。ぜひみてください。まだまだ募集していますので、書きたい人はカウンターにいる図書視聴覚委員・司書に声をかけてください。書いてくれた人は、図書館に持ってきてくださいね。



●書名『世界のチョウ』／題名の通り、世界のチョウが載っている本です。綺麗で美しい蝶もいれば、奇抜でおもしろい蝶も載っています。まるで宝石を見ているかの様にキラキラしています！！

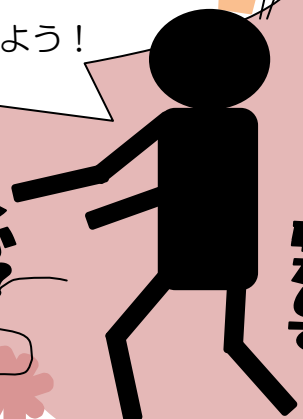


また、その蝶の分布や、見た目の特徴、生態系の説明が書いてあり見ているのも楽しいですが読むのも楽しい本です。蝶だけに超すごい本です！！（IC・Sさん）

「本が読みたい」けど、何を読んだらいいかわからない。
そんな時は、ここにあるサイコロを振って出た本を読んでみませんか？
テーマは「秋」です。
振って出た目の本がなかったら？もう一度振り直してみよう！



みませんか？



サイコロで本がでる

先生のおすすめの一冊!

今年庄農に来た先生方におすすめの本を教えてくださいました、パート1。

『沃野の伝説 (上・下)』

内田康夫 著

庄内を舞台にしたミステリー 御船 明彦校長先生

頭が疲れた時に、私は好んでミステリーを読む。ガリレオ先生の「東野圭吾」、澤村慶司の活躍する「堂場瞬一」や「漢かなえ」など。そしてそれと並んで、「内田康夫」は軽く読めて非常によい。テレビドラマでおなじみの浅見光彦が、旅先で事件に遭う旅情ミステリーは特に有名であるが、今回はその中で「沃野の伝説」を選んだ。ここでの沃野とは、すばり「庄内平野」のことで、事件の舞台は酒田である。読んでみると、庄内地方の地名や名所がたくさん出てきて、少々長いがその分読み応えがある。できればこれもテレビドラマか映画にでもなってくれば、地元のためになると思うのだが。ちなみに内田康夫は今年、浅見光彦最後の事件「遺蹟」という本を出した。ひょっとしたら、このシリーズはもう終わりなのかも知れない。



『出発点 1979~1996』

宮崎駿 著

出発点 増子 牧先生

私の尊敬する人にリリー・フランキーと宮崎駿さんがいます。なんでこの二人なのか?てこの機会に初めて考えてみました。答えは見つからなかったけれど、どちらも物凄い想像力と創造力を持っていますよね。そこに惹かれるのかもしれませんが。

その一人、宮崎駿さんの六百ページ位の分厚い本があります。実は最初から順を追って読んだことはありません。偶然開いたところから読んでいたけれど、そんな読み方でも何度もこの本に助けられました。この重さも心地よいです!リリーさんのエッセイも抱腹絶倒でいろんな場面で救われるけど、どちらもこの世に新しいものを生み出すパワーが溢れています。自分に自信が無くってウジウジしがちな人、発信できない人、アニメ好きな人にもおススメです。

『鳥かごの詩』

北重人 著

遠い記憶 佐藤 忠先生

この本を手にするまで、酒田市出身である北さんのことを私は全く知りませんでした。それに加えて、私がこの「鳥かごの詩」を読んだときには北さんはすでに病死していたのでした。六十一歳です。存命ならば、もっと多くの作品を執筆し、藤沢周平さんに匹敵するほどの作家になったのかもしれない。本当に残念に思います。

さて、北さんの代表作品は時代小説が多いようです。庄農の図書館にある「汐のなごり」も時代小説のようです。でもこの「鳥かごの詩」は、「澄みきった青春の物語」と本の帯に書いてあるように青春小説と言えるものです。さらに帯には「受験のための絶対条件は個室。ようやく探し当てた下町の新聞販売店の個室は、『鳥かご』のような段ボール仕切りの部屋だった!」「働くことも、生きることも、こんなに真っ直ぐだった。」

この本を読んで私は、主人公「康男」と三十数年前の自分の姿を重ね合わせて一気に読んだのでした。そして読み終えた時、この本に問われた気がするのです。「おまえは今、働くことも、生きることも真っ直ぐなのか?」と。



『Oに近い△を生きる』

鎌田責 著

Oに近い△を生きる 氏川 司先生

今日の教育では、逞しい「生きる力」の育成が、叫ばれています。グローバル化の進む世界で、これからの日本に必要なのは「別解力」です。たった一つの「正解」に縛られるのではなく、幾つもある「別解」の中からOに近い△を見つけていく方法です。会社の中でも、家庭の中でも、地球の中でも、みんながより幸福にあたたかく回転していくために。著者の鎌田医師が、今までと違う視点で、住みにくい現代社会で希望の持てる新しい生き方を読者にわかりやすく説明している。皆さんもご一読下さい。

『オニババ化する女たち』

三砂ちづる 著

身体に耳をかたむけて 澤田 美佳先生

ぜひ女性に一度読んで欲しい本です。あまり意識はしないけれど、誰も言わなくなったけれど一番大切なこと。でも身体は知っています。

電車に乗るとき、授業中イスに座っているとき、みなさんの姿勢はどんなふうになっているのでしょうか?

ちょっとしたことで、身体の不調が改善されたりしてきます。10代の若いうちから身体の声に耳をかたむけてみてください。

『日本人の知らない日本語』

蛇蔵&海野凧子 著

外国人はそう考えるのか? 畑山 智洋先生

普段、みなさんは、授業で英語を勉強しています。同じように、日本語学校で日本語を勉強している外国人がいます。この本には、そんな日本語学校の日常が書かれています。

登場人物は、みんな個性的で熱心に日本語を学んでいます。例えば、「冷める」と「冷える」の違いはなんですか?年齢を書くときは「才」と「歳」どっちですか?「袖ビーム」ってなんですか?そんなマニアックな質問をどんどん先生にぶつけています。

他にも、日本人も読めないひらがななど「へ〜」と思う内容が書かれています。